

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：35410

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381227

研究課題名(和文) 説明する力を育成する小・中接続型の文章表現指導プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a Basic Guidance Program Targeting Logical Writing Expressions for Elementary School Upper Grades and Junior High School First Grade

研究代表者

井口 あずさ (IGUCHI, Azusa)

比治山大学・現代文化学部・准教授

研究者番号：90511600

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：小学校高学年と中学校1年生で使用可能な、論理的な文章表現指導のための重要な学習活動(メタ認知方略尺度)を明らかにし、その尺度をもとに文章表現指導プログラムを開発した。プログラムは、指導過程、指導方法(基本的な学習活動、対話、自己評価)、教材で構成された。教材は、地域や学校の特徴を反映させた内容にすることも可能であった。実践を通して検証した結果、主題と構成に効果が見られ、社会や生活、自己に対するものの見方の変容が促された。また、記述の指導を補うべきことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The important learning activity or “the metacognitive strategy scale” formed the basis for logical writing expressions to be used at upper grades of elementary school and by junior high school first grade. A guidance program package was developed to include a training process, educational method (i.e., basic learning activities, dialogue, and self-evaluation), and teaching materials. This program was based on the metacognitive strategy scale. It was possible to make the teaching materials to reflect the feature of the area and school. After a thorough practice, the effects of the guidance program included improvement of subject and organization, and changes in relation to society, school life, and one’s self. One important suggestion was to add a guidance of description.

研究分野：社会科学・教育学・教科教育学

キーワード：メタ認知方略 学習科学 自己評価 論理的な文章 小中連携 教材開発 意見文 指導過程

## 1. 研究開始当初の背景

### (1)文章の理解にもとづいた、論理的に表現する基礎的な力の育成

従来国語科では、説明する書く活動が、読みの活動と関連づけて十分に検討されてきたとは言いがたい。また、意見文や批評文等より高度な文章表現の基礎指導は小学校高学年から本格的に始まるが、そこで求められる力を、学校種を越えて、学習活動レベルで把握する必要がある。

### (2)文章表現研究における、学習科学の実践的、実証的な研究の要請

中央教育審議会(2012)は、理論と実践の架橋となる研究を求め、学校現場の実践や学習成果につながる学習科学等の実証的な研究が必要であるとした。しかし従来国語科では、記述的、質的な研究が多く、実践での学習者の変容過程を実証的に明らかにする研究は一般的ではない。

井口(2011)は、国語科の論理的な文章表現指導の領域で学習科学の方法を先駆的に取り入れ、重要な学習活動を構造的に整理した。また、それを用いた指導過程と指導方法を提案したが、それらの有効性を検証するにとどまった。その研究内容と方法を発展させ、多様な地域や学校に対応可能な、汎用的な指導プログラムを作成する必要がある。

## 2. 研究の目的

国語科教育の論理的な文章表現指導の領域で、説明する力を育成する小・中接続型の指導プログラムを、学習科学の方法を用いて、実践的、実証的に開発することを目的とした。

現行学習指導要領「書くこと」の中学2・3年では、意見文や批評文など、より高度な、論理的な文章表現力が要請された。本指導プログラムはその基礎的な力を育成するものであり、小学校高学年と中学1年を対象とした。

## 3. 研究の方法

### (1)重要な学習活動としてのメタ認知方略の抽出

現行の小学校高学年と中学校1年の教科書教材を分析して質問紙を作成し、調査を通して重要な学習活動(メタ認知方略尺度)を抽出する。並行して、小学校高学年と中学校1年の「読むこと」「書くこと」の学習指導要領尺度を作成する。井口(2011)の作文に関する自己効力感尺度と内発的価値尺度、作文不安尺度、学習指導要領尺度と、メタ認知方略尺度との関係を調査を通して検討し、メタ認知方略尺度の教育的妥当性を明らかにする。

### (2)指導プログラムの作成

メタ認知方略尺度の学習活動を指導する指導プログラムを作成し、実践を通して指導

の効果を検証する。教材は現行の教科書教材を用いる。

### (3)実践プログラムの作成

地域や学校の特徴に、指導プログラムを柔軟に対応させた実践プログラムを作成する。実践を通して指導の効果を検証し、指導プログラムの汎用性を明らかにする。実践プログラムは、作成した複数の地域教材を含む。過疎地域の小中学校で、実践者と共同で作成する。

## 4. 研究成果

### (1)重要な学習活動(メタ認知方略尺度)

探索的因子分析の結果、メタ認知方略尺度は、「情報収集・整理」「情報構成」「伝達・説得」の3因子・11種類の学習活動で構成された。尺度は、教育的妥当性を有しており、取材、構成、記述の各段階での指導に対応し、学習指導要領の内容を達成するための下位学習活動であることが明らかになった。

尺度は、情報収集と整理の活動を通して、ものの見方の変容を促し、新たに獲得したものの見方を中心にして情報を構成させるものであった。また、「読むこと」の指導内容にも対応するものであった。

### (2)開発した指導プログラム

メタ認知方略尺度をもとに設定した指導過程、指導方法(基本的な学習活動とそれを促す対話、自己評価)と教材を組み込んでパッケージ化したものであった。

それは、近年要請されている「二十一世紀型能力」の「基礎力」(言語能力)、「思考力」(メタ認知)、「実践力」(社会参画)を同時に育成する方法を、国語科の「書くこと」の領域で提案するものでもある。

#### 指導過程

取材、構成の各段階に、推敲と交流をそれぞれ含めた。記述前に必要に応じて作業を修正できる、再帰的なものであった。

指導方法(基本的な学習活動、対話、自己評価)

情報を得るためにはたらきかける活動として、メタ認知方略とその基本的な学習活動を設定した。対話を通して基本的な学習活動に取り組みやすいようにし、メタ認知方略が導かれるようにした。毎時の終了時に、はたらきかける活動を振り返り自己評価させた。

#### 教材

教材を、はたらきかける対象と、はたらきかける活動とで構成した。はたらきかける対象は、読みの教材と作成過程で用いるメモであった。いずれも断片的な表現で構成され、書かれていない情報相互の関係や、情報と自身との関係を考えさせるものであった。また、構成段階では、不十分なメモを修正させるものであった。

#### 成果と課題

本指導プログラムでは、主題の把握と論理的な一貫性づくりに効果が得られ、社会や生活、自己に対するものの見方の変容が促された。また、記述の取り立て指導を補うべきことが示唆された。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

井口 あずさ・石井 眞治、教員養成における平和意識の変容を導く指導の開発 - 絵本の読解を通して -、比治山大学教職課程研究、査読有、2、2016年、20-35

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/metadata/12327>

井口 あずさ、小学校国語科における説明する力を育成する読みの指導の検討 - 青木幹勇の『第三の書く』の場合 -、比治山大学紀要、査読有、21、2015年、45-54

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/metadata/12245>

井口 あずさ、情報生産的な読む言語活動を組み込んだ単元構成、教育科学国語教育、査読無、781、2014年、62-63

井口 あずさ、要約する必然性のある学習課題の設定を、教育科学国語教育、査読無、778、2014年、8-9

[学会発表](計6件)

井口 あずさ、「書くこと」における地域教材・学習材の開発 - 社会参加を導く読みの学習活動を中心に -、全国大学国語教育学会大会、2016年5月28日、新潟大学(新潟市)

井口 あずさ、論理的な文章の作成過程における重要な学習活動の検討 - 小中接続に対応するメタ認知方略尺度の作成 -、日本教育心理学会、2014年11月7日、神戸国際会議場(神戸市)

井口 あずさ、小学校国語科における「第三の書く - 読むために書く 書くために読む -」(青木幹勇著)の書く学習活動の現代的意義の検討 - 説明的文章教材の指導を中心に -、日本教科教育学会、2014年10月12日、兵庫教育大学(神戸市)

井口 あずさ、説明する力を育成する指導内容の開発の試み - 自分の考えを明確にする指導を中心に -、全国大学国語教育学会大会、2014年5月18日、愛知県産業労働センタ - (名古屋市)

井口 あずさ、説明する力を育成する教科

書教材の検討 - 自分の考えを明確にする学習活動を中心に -、全国大学国語教育学会大会、2013年10月27日、広島大学(広島県東広島市)

井口 あずさ、書く学習活動としての振り返りの検討 - 「読むこと」における「書くこと」の位置・青木幹勇氏の場合(5) -、全国大学国語教育学会大会、2013年5月19日、弘前大学(青森県弘前市)

[図書](計4件)

井口 あずさ他、大阪教育大学国語教育講座、小田迪夫先生傘寿記念論文集、2016年、21-31

井口 あずさ他、明治図書、国語科重要用語事典、2015年、111-112

井口 あずさ他、溪水社、国語教育学研究の創成と展開、2015年、345-356

井口 あずさ他、協同出版、教師教育講座第12巻中等国語教育、2014年、100-127

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

アウトリーチ活動

井口 あずさ、小中学校における「説明する」言語活動の設定と評価の工夫、2014年12月27日、比治山大学(広島市)

井口 あずさ、小中学校における「読むこと」の表現活動と評価の工夫、2014年10月4日、比治山大学(広島市)

井口 あずさ、読みの教材を生かした、説明する力を育成する小中学校の表現指導 - 特定の視点や立場を探しながら活動を楽しむ -、2014年6月14日、比治山大学(広島市)

井口 あずさ、説明する力を育成する「書くこと」の授業づくり - 自分の考えを明確にする学習活動の工夫 -、2013年12月7日、比治山大学(広島市)

井口 あずさ、「説明する」力を育成する授業づくりの基礎(2) - 読むこととの関係から -、2013年8月23日、比治山大学(広島市)

井口 あずさ、「説明する力」を育成する授業づくりの基礎、2013年6月22日、比治山大学(広島市)

6. 研究組織  
(1)研究代表者  
井口 あずさ (IGUCHI Azusa)  
比治山大学現代文化学部・准教授  
研究者番号: 90511600  
機関番号: 35410  
研究種目: 基盤研究(C)  
研究期間: 2013~2015  
課題番号: 25381227

研究課題名(和文):  
説明する力を育成する小・中接続型の文章表現指導プログラムの開発

研究課題名(英文):  
“Development of a Basic Guidance Program Targeting Logical Writing Expressions for Elementary School Upper Grades and Junior High School First Grade”

研究成果の概要(和文):  
小学校高学年と中学校 1 年生で使用可能な、論理的な文章表現指導のための重要な学習活動(メタ認知方略尺度)を明らかにし、その尺度をもとに文章表現指導プログラムを開発した。プログラムは、指導過程、指導方法(基本的な学習活動、対話、自己評価)、教材で構成された。教材は、地域や学校の特徴を反映させた内容にすることも可能であった。実践を通して検証した結果、主題と構成に効果が見られ、社会や生活、自己に対するものの見方の変容が促された。また、記述の指導を補うべきことが示唆された。

研究成果の概要(英文):  
The important learning activity or “the metacognitive strategy scale” formed the basis for logical writing expressions to be used at upper grades of elementary school and by junior high school first grade. A guidance program package was developed to include a training process, educational method (i.e., basic learning activities, dialogue, and self-evaluation), and teaching materials. This program was based on the metacognitive strategy scale. It was possible to make the teaching materials to reflect the feature of the area and school. After a thorough practice, the effects of the guidance program included improvement of subject and organization, and changes in relation to society, school life, and one's self. One important suggestion was to add a guidance of description.

2013年度	1,200	360	1,560
2014年度	800	240	1,040
2015年度	800	240	1,040
総計	2,800	840	3,640

研究分野: 社会科学  
科研費の細目: 教育学・教科教育学  
キーワード: メタ認知方略、学習科学、自己評価、論理的な文章、小中連携、教材開発、意見文、指導過程

交付決定額(千円)  
直接経費 間接経費 計